

社会を取り巻く環境

- 変化の激しい社会・不確実性
- 急速な人口減少・少子化
- Society5.0の到来予測
- グローバル社会の進展

第7次山形県教育振興計画 目標「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」

- | | | | |
|--------------------------|--------------------|--------------------|----------------|
| 県立高校の将来の在り方を検討する上でのキーワード | > 予測困難な時代を生き抜く力の育成 | > 誰一人取り残さない教育 | > 地域を支える担い手の育成 |
| | > 時代の進展に対応した学び | > 県立高校のさらなる魅力化・特色化 | > 快適な学習環境の整備 |

I. これからの県立高校を考える上での視点

- | | |
|--|---|
| 1 少子化による生徒数の減少をマイナスのみに捉えず、教育の質と学びの多様性の確保 | 3 デジタル技術の高度化や多文化共生など、時代の進展に対応した新しい学びの創設 |
| 2 多様な地域資源を活用し、実社会での学びを生かした人材育成 | 4 高校の特色化を推進し、学校に関わる全ての魅力を広く周知 |

II. 県立高校が取り組む教育の重点

1 全ての生徒の可能性を引き出す教育

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着に向けた、**生徒一人ひとりに適した学びの実現**
- (2) 主体的かつ協動的な学びを実践する**探究学習の充実**
- (3) 多様化・複雑化する**生徒の実態と学びのニーズに対応した教育の充実**

2 地域を支える人づくり

- (1) 自分の将来に夢を持ち、社会的・職業的自立を図るための**キャリア教育の充実**
- (2) 社会を生き抜く実践的な知識や技能の習得に繋がる、**地域と協働した教育の推進**
- (3) 持続可能で活力ある地域社会を支える、**地域の産業人材を育成する教育の推進**

3 新しい時代への対応

- (1) 最先端のAIやデータサイエンスなどを含む新たな学びの創設や、高度なデジタルスキルを備えた人材の育成に向けた**教育DXの推進**
- (2) 多文化共生社会の中で活躍できる人材の育成等に向けた**グローバル教育の推進**
- (3) 生徒の適性や能力、興味・関心を踏まえた学びを可能とする、**柔軟な普通科教育の推進**

4 魅力ある学校づくり

- (1) 教育活動の重点や育成を目指すべき人物像の明確化、小・中・大学等との連携や県外生受入れの推進等による**学校の魅力化・特色化の推進及び効果的な情報発信**
- (2) 学校教育施設・設備の更新や充実、生徒へのサポート体制の充実等による、**望ましい学習環境の整備・充実**
- (3) ワーク・ライフ・バランスを保ちながら、安心して働き、研鑽を積み、**教職員が力を発揮できる環境づくり**

III. 県立高校の在り方に関する基本的な方向性

1 入学定員の設定

- (1) 中学校卒業見込者数の推移や中学生の志願状況、私立高校の配置状況等を考慮
- (2) 市町村に唯一所在する小規模校は、その特性や社会的役割を考慮

2 学級数等の取扱い

- (1) 1学年当たり4～8学級を確保することを基本
1学年当たり4学級を下回る学校は、遠隔授業や地域との連携により、教育環境の充実に努める
- (2) 入学者数が入学定員から1学級分を減じた数以下の年度が2年連続した場合、その翌年度から入学定員を1学級減じる
- (3) 職業に関する専門学科（以下「産業系学科」という。）は、各地域の産業の担い手育成のため、上記（2）の基準は適用しない
1学級当たりの定員については、40人を基本としながら、学びの分野の維持や質の向上等の観点から柔軟に設定

3 市町村に唯一所在する1学年当たり1学級の県立高校の取扱い

- (1) 市町村に唯一所在する1学年当たり1学級の学校は、本ビジョンの期間中、所在市町村との連携のもと、学校の維持を基本
- (2) 入学者数が3年連続して入学定員の2分の1に満たない場合は募集停止を検討
募集停止の検討にあたっては、交通事情等地域の実情や存続に向けた所在市町村の主体的な関わり方を十分考慮
検討の結果募集停止が決定した場合は、これを公表した年度の翌々年度に実施する入学者選抜から募集停止

4 課程・学科の配置及び学校・学科の特色化に向けた方向性

(1) 普通科系学科

- (ア) 大学進学に向けた指導体制を確保するため、進学指導を充実できる規模の学校を8地区全てに少なくとも1校は配置
- (イ) これからの産業構造の変化を見据えた学科やグローバル社会に対応した学科、市町村等と連携して地域創生に向けた取組みを実践する学科など、新たな学科・コース等の創設を検討
- (ウ) 必要に応じて、普通科高校の再編（産業系学科も含めた専門学科との併設を含む）についても検討

(2) 産業系学科

- (ア) 本県産業を支える人材育成の場を確保するため、各地域の産業構造やニーズ等を踏まえた専門学科を4学区（東・西・南・北）に配置
- (イ) 各産業分野の人材確保のため、学びの分野の維持に努める
- (ウ) 必要に応じて普通科も含めた他学科との再編統合を検討

(3) 総合学科

- (ア) 生徒の興味・関心に応じた選択性の高い学びを提供するため、総合学科を4学区全てに少なくとも1校は配置
- (イ) 必要に応じて普通科も含めた他学科との再編統合を検討

(4) 定時制・通信制

- (ア) 生徒の多様な学習ニーズに対応し、柔軟で個別最適な学びの場を提供するため、定時制を4学区全てに少なくとも1校は配置
- (イ) 通信制について、生徒の効果的な学習や、通学の便等に考慮したサテライト校等の配置の必要性について研究

(5) 中高一貫教育校

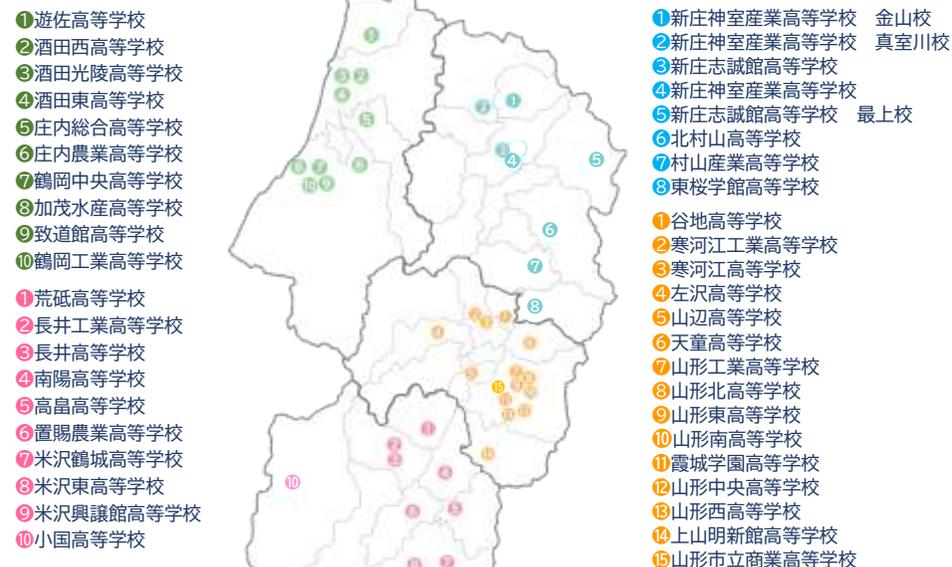
地元市町村立中学校への影響等を考慮し、内陸、庄内のモデル校2校を参考に、地域の声を聞きながら丁寧に検討

(6) 小規模校

- (ア) 参集型の授業に加え、遠隔・オンライン授業を活用したハイブリッド型の授業の推進により、多様な価値観に触れる学校間連携を強化
- (イ) 地域の高校として、地域と協働した探究学習やキャリア教育を推進
- (ウ) 多様な価値観を持つ生徒の交流や、地域の活性化に向けた県外生の受入れを推進

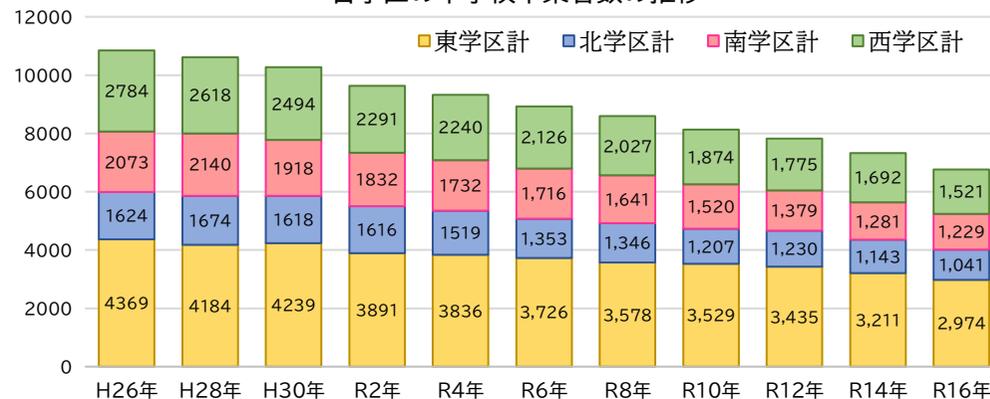
5 県立高校の配置に関する各地区の方向性

- (1) 各地区の入学定員の設定に当たっては、中学校卒業生数の推移、私立高校の配置状況、公立の小規模校や定時制の配置状況、地区間の通学の状況等の地域の実情を十分に考慮し、学区ごとに検討委員会を設置して検討
- (2) 1学年当たり1学級の小規模校は、検討委員会での検討とともに、別途地域との意見交換を実施



※配置図はR8年4月時点

各学区の中学校卒業生数の推移



※R8年以降は「令和7年度学校基本調査」等による推計値

